

東方精神への復讐

予嘗テ馬來半島ニ在リ、護謨栽培ニ從事ス、時偶々
英國官憲ヨリ苦力取締規則ナルモノ索布セラレ、労働者
ノ使役法ニ関シテハ勿論、衣食住ヨリ衛生諸般ノコトニ
至ルマデ幾多ノ事例ヲ掲ゲテ用意周到、微ヲ穿テ細ヲ尽
クシテ録ストコロナカリキ。人はヲ觀テ渠等勝白人ノ政州
文明國ノ施設如何ニ行キ居キ居レルカヲ讚嘆セリ。予ハ
然ラズコレアル哉從來徃々白人ト異色労働者トノ葛藤ヨ
リ血ヲ見ルマデニ至リ之慘過ノ事例アリシトノコトヲ顧
ミテ其依テ来ルトコロノ所以アルヲ察知セリ、予カ在留者
時政人護謨園ノ支配人若クハ監督者ノ苦力ノ為ニ傷害セ
ラレタルノ實例アリシコトヲ耳ニセルモノ、未タ邦人ノ間

絶ヘテ斯ル忌マワシキ事例ナシ、コレ何が故ゾヤ、由來
歐羅巴ノ奴隸制度ノ繁達セル長キ歴史ヲ有ス、昔日羅馬
全盛ノ時代如何ニ戰敗國ノ民カ戰勝國ノ治下ニ奴隸トシ
テ虐使セラレタルカノ事蹟ヲ想起スベシ、然カノコトヲ
不近ク露西亞ノ如キ君主國カ其帝政ノ時代ニ於テ如何ニ
無智ノ農民ヲ压迫シ、貴族ノ財民ヲ遇スル恰カモ奴隸ニ
均シキノ觀ナキ能ハガリシト云フコトアラズヤ、革命ノコ
ト推シテ知ルベシ、斯クノ如クニシテ其民族性ヲ陶冶セ
ラレタル民族カ翹望スルトコロハ一ニ懸ツテ個人權利ノ
主張ニ外ナラズ、今日歐洲文明カ如何ニ極端ナル個人主
義ニ墮在シ、育目的ナル惡差別ノ妄見ニ捉レツ、アルカ
ヲ見ズ、即チ最近實現セラレタル北米排日案ノ如キモト

ヨリ其著之キ一端ナリ、尚ホ汎ク渠等白人ガ世界到ル處
ノ植民地ニ於ケル異色民族ヲ遇スル其苦狀ヲ實見スレハ
何人カ其胚胎スルトコノ果シテ那辺ニアルヤヲ了セシ、
斯ル精神ノ惡習高先ニ徹セル渠等民族ノ当然解着スベ
キ主要事項ノ研究問題ハ乃チ制度施設ノ細緻精微ナル形
式ノ方便ニ外ナラズ、或ハ表面國際聯盟ヲ主張シ、或ハ
平和會議ヲ唱道シツ、モ裏面ニ異境ノ劣弱國ヲ脅威シテ
ニ國際權勢ノ爭奪ニ暗闘シテアラビヤニ於ケル英佛ノ關係
ノ如キ果シテ如何、然ラズレバ他國ノ淺薄ナル文化ヲ政
策的ニ施シツ、陰ニ同文ノ親善ヲ破ルンガ如キ舉アル一
支那ニ於ケル米國ノ態度ヲ見ヨ、若クハ利權ノ強壓的奪
取ニ滑稽機策ヲ弄スル等比々皆ナラザルハナシ、中央亞
細亞ニ於ケル油田利權ノ如キ、即チ大道ノ上ヨリシテ差
別ノ中ニ平等ノ普遍ヲ覺ル能ハサル非精神ノ徒輩ガ銳意
博愛人道ヲ口ニシテ論理整然事理的確ナルニ似タシ法令
施設ヲ如何ニ列挙スルモ、西オスルニ其根本義ガ人々仁愛
歎如ノ史的奪取ヲ暴露スルニ外ナラザルハシ、彼ノ馬來
半島ニ於ケル若カ取締規則ヲ見テ予ガ冷眼セルモ故ナキ
ニアラズ、而シテ脚下ヲ顧ミレハ東方精神ハ煥然トシテ
遠ク渾一ノ大道ニ立脚ス、古來モトヨリ攻戰没畧ノ鬪爭
的事例ナキニアラズト雖モ、彼ノ西歐民族ノ他人種ニ對
スル巧辯虛構の暴戾ト何レゾ、東邦リモト信實ト仁愛ト
ノ根本義ニ徹ス、就中日本ノ國粹的精神ノ如キ義理顯著
ニシテ、表面恰カモ階級ノ差別甚シキガ如シト雖モ、深

クコレヲ個々ノ人心ニ徴スレバ、温情ノ流露、至愛ノ襟
 撫到ル處ニ現前ニ以テ忠信孝悌德操節義ノ切實ナル至誠
 心歴然トシテ幾多ノ史蹟ニ存グルヲ得ハシ、尚ホ單純ト
 ル民俗ノ一例ヲ拈スレバ、昔日唐估ノ小僧ヲ偏使セシ、
 數年ノ年期奉公ニ見ルベキ勞力の報酬モ無ク、日夕驅使
 之テ聊カモ顧ミザルガ如ク見ユルモ、其主人ガコレヲ遇
 スルヤ一ニ温情ト仁愛トヲ以テテ所謂勞資的關係ヲ以
 テセズ、其年期ヲ了ルニモ一ニ對シテ一暖簾分ケシテ一
 家ヲ構ヘシムルカ如ク實ニ好個ノ實例ニアラズヤ。況ン
 ヤ級ノ義士傳傳士魂ノ精華ニ於テオヤ。然ルニ本邦維
 新以來沛然トシテ流注セル西歐文化ノ潮流ハ、彼ノ長ト
 スベキ物質的文明ノ科學的進歩ヲ迎フニトバマラズシ
 テ然カモ尚ホ其輕佻囂棄スベキ彼等傳統印物排他的ノ
 精神ニマデ及ボシ、為ニ特ガ卓立セシ民族性ノ性情ヲモ
 一變セシトスルニ到レリ、今日改造ヲ叫ビ、文化ヲ提唱
 之テ所謂皮膚層ナシ更始一新ヲ稱道スシ徒輩ハ、彼ノ哲人
 陽明ガ詩ニ沿門持鉢做眞見ト均シキ自家ノ脚跟下ヲ忘逸
 セルモノト云フバシ、功利形名ノ末節ニ拘泥スル翻譯思
 想果シテ何モノゾ。コレガ爲ニ却テ進歩的ト自セラレハ
 秀才ノ性々ニ之ヲ尤極的妄見ニ階上スルモノ勢カラザルハ
 莫ク患フベキナリ。今ヤ其文化ノ及ボストコロハ何ゾヤ
 曰ク個人主義利己精神ノ汪溢、曰ク官能の刺戟ノ追及、
 曰ク庸恥心ノ壞滅、曰ク類聚的藝術ノ流行、曰ク義理禮
 道ノ無視、曰ク技巧好才ノ跳梁、曰ク虛譽ノ跋扈、曰ク

利益本位ノ階級闘争、曰ク権勢争奪論政治、曰ク疲
的危機思想、曰ク何、曰ク何、挙が来しハ一トシテ我が
民族性ノ光輝ルレ傳統的精神ニ逆反セル惡現象ノ總テ
アラバヤ、斯ル思想的國運ノ危機之際ニ、我等ノ嚴然ト
シテ固守スルキ國本ノ大道ハ何ゾヤ、コレ云ハガシテ知
ル、易簡ニシテ至極セル東方精神ハ復故乃チ是ナリ。
神道、儒道、佛道、回道、何レカ其精神ノ顯現ニアラバ
ルガレモ一トシ、就中皇國神道ハ我が明治大帝ノ大詔宣
布ニ採ルルモ我大和民族全部ノ何宗タムヤ問ハ不均シク
奉持シテ忘ルベカラザルモ一ト云フベシ、儒道ハ日本精
神陶冶ノ鑪、佛道ハ我が民族文化ノ心源ニ洞徹セルモ
一アリ、而シテ回教ニ到リテハ邦人ノ未カコレカ討究シ
試ムルモ、勘シト虽モ、亞細亞先進國ノ大部ハ殆ド回教
徒ニシテ其數實ニ三億ヲ算ス、隣邦支那ニスラ五千萬ノ
回教徒アリ、其精神の結束ノ牢キトシテ勸スベカラザル
信仰力ノ強シク寧ロ他ノ諸教徒ニ勝ル、只嘆カバキハ渠
等信徒ノ大部分ガ近代文化ノ科学的知識ニ乏シク、昔日
ノ國光殆ド地ニ落チ、隨所白人ノ羈束ニ縛セラレ、氣息
奄々トシテ其統治下ニ胸々スル幾多劣弱國ニ互レハ一
事以テ東方精神ノ為ニ悼ムベシ。予ガ昔テ在留セル英領
南領ノ南洋植民地民族ノ如キ總テ回教徒ニシテ無智ノ中
ニ自ラ純真ノ業露アリ其信念ノ堅キ實ニ驚クバキモ、ア
ルヲ見ル、為ニ歐洲諸國ガ其植民地統治ノ上ニ國際政局
ノ紛乱ヲ回教徒ニ及ボスヲ惶レテ如何ニ憂心シツ、ア

又ハ大ニ注目ニ値スベキモノナリ。然カモ渠等ト虽モ今
ヤ埃及ノ独立ガ曲リナリニモ實現セラレ、又欧州大戦ノ
為ニ疲憊其極ニ達セル土耳其ニスラ其青年黨ノ間ニ次回
教主義(ハシイ)スラ之ガ一運動起リ或ハケマルルヤ、
如キ志士ノ躍動ヲ見ルガ如キ若クハ轉ジテ印度ニ於ケル
ガンダー一汎ノ非協同々盟ノ鞏固ナル結束ノ如キ彼ノ一
汎ニハ多数ノ回教徒アリ其他アツガニスタンニモ、ベル
シヤニモ、アラビヤニモ、追々有識者ノ覺醒シツ、アル
モノ個々擡頭シテ隱約ノ間ニ風雲ヲ弄スモノアル、斯ル
回教一汎ノ大勢ハ亞細亞ニ於ケル重要視スベキ一現象ナ
リ。今ヤ排日ノ屈辱的差別待遇ヲ蒙リ、渠等文明ノ内幕
ヲ觀面ニ見セツケラレツ、アル邦人ノ領々回光返照シテ

東方精神ノ渾一ナル大道ニ復歸スベシ、以テ亞細亞ノ民
族ヲ結合シ皇國ノ使命ヲ榮輝セガルバカラス。